

「はたらくこと」 「はぐくむこと」

白杵さんは、妻と子ども3人と
の5人暮らし。3人の子ともはそ
れぞれ小学3年生、1歳、0歳で、
1歳の子ともは保育園に通ってい
る。そのため、朝4時に家を出て、
7時に店を開け2時間営業した後、
9時には一旦閉店し、その間に1
歳の子ともを保育園に預けるなど
し、正式な開店時間である10時か
ら本格営業するという多忙な日々
を過ごしている。子どもの保育園
の迎えは、亜矢子さんが行い、そ
の後、家事を担当する。白杵さん
自身も、0歳の子ともを背負いな
がら、店先に立つこともしばしば。
白杵さんは、子どもを世話しなが
らの店の経営について、「大変では
あるけれど楽しさもある」と話す。
子どもと常に近い距離にいたため、
日々子どもの成長を実感できたり、
その行動から新たな発見が生まれ
たりする。そのことが、子育てに
やりがいを生んでいる。もう少し
時が経つと、0歳の子どもの一人
歩きが始まることになるため、世
話をしながらの仕事はさらに大変
になる。それにも関わらず白杵さ
んは、「子どもの成長に合わせて仕
事も変化していく」と笑顔で話す。

熊谷駅から徒歩5分の場所に、「人の多いまちでチャレンジしたかったから」という理由でベーグル店を出店した白杵 健（うすき たけし）さん。以前は深谷市に店を構えていたが、熊谷市内の高校に通っていた縁もあり、この場所に出店を決めた。新たな生活の地である熊谷で、仕事と子育ての両立を家族で助け合いながら実践している。

ニューヨークをコンセプトとした明るい雰囲気のお店で扱うベーグルは、白杵さんの「何かに特化した店にしたい」という思いから生まれている。ベーグルのメニューはプレーンをはじめ、季節素材を使ったものからサンドまで10種類以上あり、「これからも深めていきたい」としている。サンドについては妻の亜矢子（あやこ）さんが熊谷産の野菜を取り入れながら作っている。また、シナモンロールや全粒粉のパンなど、ほかのパンの種類も豊富なため、購入するにも迷ってしまう。オープンからもうすぐ3年、徐々にまちに馴染んできているが、白杵さんはずっともを背負い、「まだまだ頑張らねば」と意気込んでいる。

USUKINGBAGEL
〒360-0037
address: 熊谷市筑波 1-175-3
tel/fax:048-522-7717
mail:yoku.kame@gmail.com
open:10:00~19:00 日曜定休

黒ごぼう 420
切干大根 420
ごぼう 420
ごぼう 420
ごぼう 420

VOLKORN
BROT

VOLKORN
BROT
RANGE



白杵さんが「仕事と子育てを両立している」ということは、白杵さんは「家族で仕事や子育てに取り組んでいる」と言い換えられる。亜矢子さんは、ベーグルサンドの考案などの店での仕事に加え、保育園の迎えや家事もきっちりこなしてくれる。白杵さん自身は、翌日の仕事のこともあり、子どもとともに21時半頃には就寝するが、翌目を覚ますと、洗濯などの家事が全て終わっているため、「毎朝ありがたい気持ちになる」という。加えて、小学生の子どもが、店ではレジ打ちの手伝いを、家に帰れば下の子どもたちを絵本を読み聞かせながら寝かしつけてくれるなど、仕事に子育てに協力し、その姿を1歳の子どもが見習い、0歳の子どもは顔を見ようとするような家族の姿ができていく。

小学生の子どもの夢は、「自分でカフェを始めること」で、すでにメニューも考えているそうだ。白杵さんもそれを楽しみに思っているが、「店を継いで欲しい」という考えはなく、ただ、「一緒にやりたい」とか「私が継ぎたい」と思えるような、手本となる背中を見せ続けたいと考えている。



そのような白杵さんの、子育てに対する考えは、「ありのまま自由に育って欲しい」ということで、子どもが好奇心を持ったことについては、自由にやらせるようにしている。子どもらしく何でも遊びにしてみよう、嬉しく、ひどく叱ることもあるが、笑ったり、学んだりしながら成長し、変化していく子どもを、日々見守っている。

白杵さんの提供するベーグルはもっちりや噛みごたえがある。白杵さんは、「よく噛むことで健やかな成長をしてくれば」と、子どもたちにも食べさせる。店で販売しているサンドやスープについては、亜矢子さんが、「子どもがお腹を空かせた時にすぐにあげられるような安全で安心なものを作りたい」という考えのもと、熊谷産の野菜を取り入れ、開発に励んでいる。季節ごとにその時期の旬の食材を使用し、ほかにはあまりない、身体に優しい熊谷の四季を感じるベーグルを生み出している。

白杵さんが子どもを背負っている時に、店を訪れる人の中には、その姿について声をかけてしまう人もいる。子育ての話になった際には、お客さんから子育ての愚痴が

飛び出すこともあるそうだ。

家族を支える一人として、仕事や子育てをする一方、白杵さん自身も店やまちの将来に対して思いを持っている。白杵さんは熊谷のまちについて、「熱意のある店が多い」と話す。出店してもうすぐ3年を迎える中、周辺の店舗とも繋がりができていく。繋がりのある店の主人には、「どうしたら熊谷がもっと良いところになるのか」を本気で考えている地元が大好きな人が多く、それがまちの良さであると白杵さんは考えている。3年後には、ラグビーワールドカップ2019が開催され、熊谷市内にも人が入が見込まれる。そこで、イベントだけではなく、熊谷のまちも見て、その良さを肌で感じてもらうため、まずは「にぎわいのある店をつくる」ことを目標に、家族で互いに支え合いながら今日も仕事に子育てに励む。

①子育てについて話す白杵健さん ②写真中、左の絵は店内のトータルディレクションを行ったクリエイティブディレクター BARZさんの作品 ③ショーケースにはベーグルサンドのほか、シナモンロールが並ぶ ④取材に応じる家族5人の様子